

# 表紙にちなんで

橋 寺 知 子

なにわ大阪研究センター研究紀要の表紙は、本センターが所蔵する赤松麟作の版画集「大阪三十六景」を用いている。この版画集は1947（昭和22）年に発刊されたものだが、赤松が描いた大阪の情景は、戦前期の最も豊かで活気があった頃の風景と推測される。ここでは、表紙にちなんで、風景に表れた大阪の近代をふりかえってみたい。

## 「四ツ橋」

江戸期の大阪は日本全国の物産の集散地で、堀川（運河）が縦横にはりめぐらされていた。堀川は、今でいえば物流の基幹である高速道路のような存在かもしれない。電車や車が利用されるようになって、戦前期には水都らしい景観が多く存在した。川が多ければ橋も多く、大阪の地名や通りの名前は「橋」だらけである。

今回の表紙に描かれている「四ツ橋」は、地下鉄の線名や駅名、交差点名でなじみのある「橋」のひとつだが、四ツ橋という名の橋があった訳ではない。南北の西横堀川と東西の長堀川が交差する地点に架けられた4つの橋、吉野屋橋、下繫橋、炭屋橋、上繫橋を総称するものである。大阪中心部の堀川は東西南北に整然と配置され、中でも川幅が広い西横堀川と長堀川が直交する様子は、自然な川の合流点とは別物で、まさに井の字に4つの橋が架かる特異な場所であり、『撰津名所図会』にも取り上げられている。

大阪では市電の整備が早くから進められ、1903（明治36）年、日本初の公営交通として築港－花園橋間が開業、続いて1908（明治41）年に、西長堀川の本西側に南北線（大阪駅前－恵美須町）、長堀川北岸に東西線（九条中－末吉橋）が開通した。四ツ橋の北西で2線が交差する地点は交通の要所となり、現在も「四ツ橋交差点」と呼ばれている。画では四ツ橋（吉野屋橋）上を市電が渡っているようにも見えるが、市電南北線は一つ西側の西横堀橋を渡る。四ツ橋交差点の北西角に、1908年に設けられた赤煉瓦の市電四ツ橋変電所が描かれている。

乗り物の変化は橋梁の新設・架け替えを促した。さらに大正末期から昭和初期にかけて大阪市は第一次都市計画事業を推進し、道路網の整備に伴って多くの橋が新設・改築され、四ツ橋も日本風を加味したアーチ橋に変わった<sup>1)</sup>。それと同時期の1928（昭和3）年に、鬼貫の句碑「後の月入りて貌よし星の空」が下繫橋東詰に建立され、画にも「四ツ橋の柳」とともに描かれている。

中央奥に描かれた高層建築は、四ツ橋交差点北東角に建つ大阪市立電気科学館だ。大阪市は1923（大正12）年に電灯事業を公営化、市電等の運輸事業とまとめて電気局を発足した。電気局10周年を記念して電気科学館の建設が計画され、四ツ橋交差点西北角の電気局運輸部事務所跡に、1937（昭和



「(大阪名所) 四ツ橋」(なにわ大阪研究センター所蔵)

西横堀橋を渡る市電、四つ橋筋を挟んで変電所(左)、市電事務所(後の電気科学館建設地)(右)が建つ。



「(大阪名所) 四ツ橋」(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

昭和初期に架け替えられた四ツ橋を南西角から撮影したもの。



「(大阪名所) 近代科学の殿堂電気科学館」(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)

四ツ橋交差点南西から電気科学館を望む。



旧四ツ橋所在地 現況

表紙画と同じ方向から撮影。電気科学館跡に建つビルは、プラネタリウムを思い出させる球形の意匠を戴く。

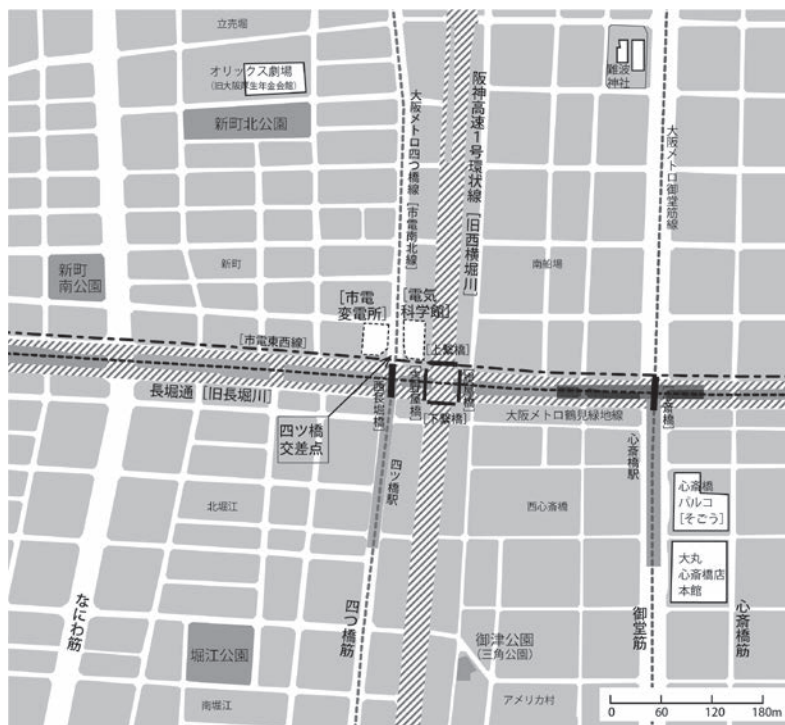
12) 年に開館した<sup>2)</sup>。建設途中でプラネタリウム（カールツァイス社製）の購入が決定し、最上階にプラネタリウムホールが設けられた。四ツ橋交差点側の水平線を強調した円弧状の外観デザインは超モダンだ。南東隅の高塔は53.5m、13階にはガラス張りの灯火管制室、頂頭部には神宮遙拝所が設けられ、防空意識の高まる時代らしさを感じる。

戦後、堀川は次々に埋め立てられた。西横堀川は阪神高速に、長堀川も広幅員の長堀通に置き換えられ、現在では「四ツ橋」はもっぱら道路の交差点名か地名として認識されている。長堀通の中央分離帯に四ツ橋を記念するポケットパークがあり、また上述の鬼貫の句碑も、下繫橋西詰にあった来山の句碑「涼しさに四つ橋を四つ渡りけり」と共に、阪神高速と交差する地点の東側に移設されて仲良く並んでいるが、これらのモニュメントだけで往時の風景を想像するのはなかなか難しい。

注釈

- 1) 都市計画道路長堀線が通る上繫橋を中心に、下繫橋、炭屋橋の3橋は都市計画事業として整備が決定し、経費に都合がつけば吉野屋橋も同様に改築と決まった（『建築と社会』1926年2月号）が、昭和初期の絵はがきには意匠のそろった4橋が写されており、ほぼ同時期に整備されたと考えられる。意匠は大阪市内の橋梁のデザインを多く考案した武田五一。
- 2) 設計：大阪市経理部営繕課（新名種夫）、施工：清水組、1937年竣工、地下1階地上8階塔屋15階、鉄骨鉄筋コンクリート造。プラネタリウムは東洋初、世界でも24番目の設置。遠足や修学旅行の訪問先としても知られ、手塚治虫もよく訪れ、織田作之助「わが町」にも登場する。1989年5月閉館、プラネタリウムの機械は大阪市立科学館に引き継がれ、大阪市指定文化財となっている。

(はしてら ともこ 関西大学環境都市工学部准教授)



周辺地図

現存しないものについては [ ] で表記している。

